

【質問内容】

1. 生き残りをかけた「地方版総合戦略」について
2. 地域の特性を生かした健康増進施策について
3. 将来に向けたICT利活用の政策について
4. 新教育委員会制度と安来市の教育について

4番作野幸憲議員、質問席へ移動願います。

〔4番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員の質問時間は50分間です。

作野幸憲議員。

▼○議長（金山満輝君）▽ 議席番号4番作野幸憲でございます。議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

今回は、大きく4点について質問させていただきます。

早速ですが、まず最初に「生き残りをかけた地方版総合戦略」について質問をいたします。

これまで今議会で多くの議員の方が地方創生について質問をされました。私は人口対策の柱の一つ、地方版総合戦略について市の基本的な考え方について質問をいたします。

市町村は2060年までを基本とした地方版人口ビジョンと2019年度までの5カ年間の地方版総合戦略を、速やかに、そして遅くとも平成27年度中に策定しなければなりません。人口ビジョンは、目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえたものでございます。よって、この地方版総合戦略の具体的な施策の決定が安来市の進むべき道を決めると言っても過言ではありませんし、生き残りをかける施策になると私は考えます。知恵を絞ったよい施策をつくらなければ、これからは国からお金がもらえません。そして、本格的な自治体間競争の始まりでもあります。

そこで、質問をさせていただきます。

1月中旬、会派で上京した折、政府関係者の方と意見交換する機会があり、地方版総合戦略が話題になりました。その方の話では、地方版総合戦略は3つか4つぐらいに絞った具体的な施策が望ましいと言っておられましたが、市の施策の方向性はどのようにお考えでしょうか。まずはお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ 失礼いたします。

市のほうは、まず総合戦略に先立ちまして、市職員が共通して取り組むために4つの基本戦略を策定をしております。安来市の特徴を十分に生かし、他市とは違う魅力ある具体的な施策

を今後盛り込んでまいります。4つの基本戦略を既に事前に定めております。その中で、今後目玉となります事業を4つの戦略ごとに位置づけていくことになろうかなと考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 政府の関係者の方が、進め方についてもそういうご提言をいただいておりますので、多方面にわたって情報収集、そういうことについても情報収集を私は進められたほうがいいのかなと思っております。また、地方版総合戦略は遅くとも27年度中に出すことになっておりますが、具体的な施策も他市町村と内容がかぶることが想定されます。政府関係者の方は、なるべく早くいいものを出すことが必要ですよとご助言をいただきました。いつごろまでに出されるか、お考えがあればお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ 本市といたしましては、平成28年度から市総合計画における策定作業に入っております。ことしの12月議会のところでは議決をいただきたいと思っております。そういたしますと、その総合計画に具体的に確実に反映をさせていかなければなりませんので、逆に申し上げますと、総合計画の基本構想に先立ちまして人口ビジョンを策定し、また総合計画の基本計画に先行する形で総合戦略を策定していく考えでございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ まだ時期はなかなか明言できないということですが、またこの地方版総合戦略の策定に当たっては、なるべく早く地域の方との対話もすると言っておられますが、これはいつごろからどういう手法で進めていけますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ まず、長期人口ビジョンの策定過程におきまして、地域として一体性のあります地区交流センター単位での対話の場を設けたいと考えております。スケジュール的には、新年度に入ってからなるべく早く行いたいと思っております。しかし、有意義な対話とする必要がございますので、交流センター単位ごとの地域の各種統計資料、分析結果を持って入らせていただきたいと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ある程度の資料を持って臨まれないと、議会報告会でもそうなんですが、陳情や要望をいただくような会になってしまうと思いますので、そこら辺はしっかりとした方向性がある程度示せるような資料を持って臨んでいただきたいと思っております。

次に、きのうまでの答弁を聞きますと、各産業界などとも幅広い対話をされるようですが、私は地方創生に当たっては、ぜひとも社会貢献活動やボランティア団体の方などからの意見も聞いていただきたいと思っております。これは結構皆さんご存じじゃないかもしれませんが、安来市内にあるそういう団体の方はいろいろな知恵を絞って活動しておられます。お金がないのに活動しておられます。そういう方の意見は大事だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ 総合計画策定の過程におきまして、市職員のみならず市全体で取り組んでいただける戦略とするために、市民の皆様を初め、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、あるいは労働団体、メディアなど幅広く意見を聞く予定でございます。そういった枠組みの中で前向きに取り組ませていただきたいと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今の答弁ですと含まれているのか含まれてないのかよくわかりませんが、一応含まれていると解釈してよろしいでしょうか。

わかりました。

また、1つのポイントとして、私は国や県といかに連携していくかということも大きなポイントと考えております。きのうまでの答弁を聞きますと、県や周辺地域とはワーキンググループ、国とは地方創生コンシェルジュ制度を活用してというお話でございました。しかしながら、今回の地方創生の具体的な施策を実行するためには、私は国会議員の秘書も大変長い間経験しておりましたが、こういうことになると陳情とか要望合戦になることも当然想定されてきます。これについての市長さんの意気込みや決意をお聞かせいただければと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ そうですね。作野議員さんが言われるとおり、この地方版の総合戦略というのは、国、県と連携をきっちりして、またご指導を仰ぎながら進めていくところでございます。特に、先ほど一番最初議員さん言われましたように、地方も独創性といいますか、総花的ではなくて、本当に3つか4つ絞ってどんと特徴あるものを持ってこいというような意気込みですので、私も今職員にそういうことで大胆なものをつくってというふうに指令をしております。今叱咤激励をしておるところでございます。よろしく申し上げます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 確かに今市長さんがおっしゃったとおりでして、私もこの地方版総合戦略の国から出ている手引きとかそういうものを見させていただきました。それを見ますと、今まで各地がやってたようなことがずらっと並んでるんです。それを受けて政策を立てていくと、なかなか私は難しいんじゃないかなというのが実感でございますので、独自のものを、なかなかこれ大変だと思いますが、頑張って政策として打ち立てていただきたいと思います。

次に、今までの市町村というと、どちらかといえば国や県の政策に乗って政策を進めてきたのが現実だと思います。つまり受け身だったと思います。しかしながら、今回の地方創生は、先ほど市長も言われたように、こちらから攻めの姿勢で向かっていかなければいけないと思っております。私は、特区とかモデル地区の認定などに向けても積極的な取り組みもこれからは考えていなくちゃいけないんじゃないかと思っております。国も地方創生特区を打ち出しておりますが、これについてのお考えはいかがでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ 昨年11月21日に、国会におきましてまち・ひと・しごと創生法とともに、地方創生関連2法の一つとして可決成立しましたものに、地域再生法の一部を改正する法律がございます。この法律は、地方創生上重要な位置づけとなっております、地域再生と特区制度が車の両輪として地域の自主的な取り組みを支援していく制度と位置づけられております。議員ご指摘のとおり、特区やモデル地区としての事業は、本市独自の施策を進めていく過程で検討すべき課題になるものと思っておりますので、前向きに取り組んで検討させていただきます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ハードルは非常に高いと思いますが、特区やモデル地区を申請することだけでもやる気や本気度を示すことになると思います。また、こういう申請したりすることによって国や県との強いパイプというものができると思いますので、ぜひ積極的に検討をしていただきたいと思います。農業一つとっても、実際に兵庫県の養父市が行っている中山間地改革特区などもありますし、安来には大型ほ場整備が進んだところもありますので、ITなどを使った先端的な農業なんかもどっかでやってみるとか、そういうこともこれからは考えていただきたいと思います。

それでは2番目の項目、「地域の特性を生かした健康増進施策について」質問をしたいと思います。

まず、地域の特性を生かしたとつけましたのは、国の総合戦略の基本目標の一つに、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という項目があります。そのほかの3つの項目は若者中心のものなんですが、これはちょっと意味合いが違ってるのかなと私は思っております。私はこの項目に該当する安来市の具体的な施策の一つとして、「地域の特性を生かした健康増進施策」を提案したいと思います。

今回の安来市の予算に示された人口対策も、どちらかといえば若者中心の施策が多くて、今後私は高齢者の健康寿命を延ばすことも医療費、介護費などを削減する点からも非常に大事で効果が大きいと考えております。

そこで、きのうの一般質問でも出ましたが、平均寿命と健康寿命ということについて少し説明をさせていただきたいと思っております。

平均寿命は皆さんよくご存じで、そのときの0歳の人その後どれぐらい生きるかを示しております。これに対して、健康寿命は厚労省の定義によれば、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことを言います。要は、日常的に介護などのお世話にならず、自立した健康な生活ができる期間のことです。当然平均寿命と健康寿命には差があります。2010年の厚労省の調査によれば、我が国の場合、男性の平均寿命が79.55歳、今はもう80歳を超えております。男性の健康寿命が70.42歳、この差が9.13年あります。女性が86.3歳と73.62歳となっていて、この差が12.68年あります。平均寿命と健康寿命の差が日常生活に制限のある、適切な言い方かどうかはわかりませんが、不健康な期間ということになります。幾

ら平均寿命が延びても不健康な期間が延びるだけでは、本人はもとよりお世話をする家族の心身両面の負担が重くなってまいります。加えて、社会全体を考えても急速な高齢化が進む日本においては、不健康な期間が延びると医療費、介護費が膨大なものになってきます。いかにこの健康寿命と平均寿命の差を縮め、縮めるだけじゃだめなんです。医療費を下げるということプラスしていかないといけないと私は思っております。安来市も国同様、同じだと思いません。

また、認知症を減らすことも大きな課題だと思っております。最近の調査でわかったことは、認知症を減らすために運動と減塩、禁煙の効果が非常に大きいということがわかり始めてまいりました。そこで、安来市の地域の特徴や今までの市の施策から考えてみますと、安来市には西日本一の大型ほ場整備がありますし、またいにしえからの神話や歴史もあります。我々が普通に見ている大山もそうかもしれません。また、安来市の健康推進会議の取り組みも県内外から高い評価を得ています。私は、運動とほ場整備と神話、そして健康推進会議の取り組みをセットにした健康増進施策が安来市の目玉の一つになるのではないかと考えました。

そこで質問に移りたいと思います。

まず、気軽にできる運動という点から、以前から私が提案している歩道を使ったウォーキングコースや、新たに大型ほ場整備内のウォーキングコースの整備も非常に有効だと思いますが、その後いかがなっておりますでしょうか。また、今後はどのようにお考えでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 安井市民生活部次長。

▼○市民生活部次長（安井章二君）▽ ウォーキングは健康増進に大きな効果があることは今さら申し上げるまでもありません。作野議員が中心となって企画されたウォーキング大会で、歩道の縁石に距離表示をされた経験をもとに、以前にもこの件に関して一般質問をいただきました。その提案をもとに、平成25年9月に、ウォーキングコースとして県道、市道を活用し、距離表示を行うためのマニュアルを作成いたしました。これは県道を管理する広瀬土木事業所、そして市道を管理する土木建設会、歩道の縁石に距離表示のペイントを行うための申請はどのようにすればよいかということを説明したマニュアルであります。このマニュアルは、市内各地区の交流センター、地区体育協会、健康推進会議で配付いたしました。このたび市のホームページに掲載するなど、改めて一層のPRを図ってまいります。

また、大型ほ場整備内でのウォーキングコース整備についてですが、ほ場整備内道路は、言いかえれば良好なウォーキングコースでもあります。現在市内各地で大型ほ場整備が進められていますので、ウォーキングコースとしても有効活用し、健康増進につなげていただきたいと思います。そのためにも、各地区でウォーキングを初めとする日常的な運動習慣の意識を高めることが重要であります。今後これまで以上にスポーツ推進委員並びに体育協会等のご連携を深め、運動習慣意識の高揚に努めてまいります。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

ウオーキングコースを整備するということになりますと、いかにコースをわかりやすくするかも非常に大事になってくると思います。最近では中海周遊サイクリングコースに路上表示もされるようになりました。実際に米子市内に入ると、もう9号線にそういう表示が路面にされております。今後道路上のペイントは可能になっていくんでしょうか。そのところをお答えいただきたいと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野基盤整備部長。

▼○基盤整備部長（作野立生君）▽ 道路上へのペイントは可能になったかというご質問でございますけれども、路面標示はペイントを、記号または文字を路面に描くことにより道路における交通の安全と円滑を図り、道路の構造を保全することを目的としております。路面標示のうち、道路標示は道路交通法に基づき都道府県公安委員会が、区画線は道路法により道路管理者が設置することとなっております。通常路面標示につきましては道路交通法での制約を受けますが、今回の中海周遊サイクリングロードコースの路面標示設置につきましては中海会議で提案され、宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議の中で検討し、法定外標示として島根県公安委員会と島根県との協議の結果、中海周遊サイクリングロードでの路面標示が可能となり、実施するものでございます。法定内標示とは、停止線前のとまれの文字や交差点クロスマークの標示など、交通事故防止上有効なものや運転者への注意喚起をするためのものでございます。今後道路管理者として、道路上への標示につきましては健康づくりの推進、スポーツ振興などの政策面を総合的に判断し、公安委員会と協議しながら検討してまいります。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 道路上の話はありましたが、歩道はこれに当たるんでしょうか、わかればお聞きしたいと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野基盤整備部長。

▼○基盤整備部長（作野立生君）▽ 歩道も道路の一部でございまして、同じ考えでございませう。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は今までできなかったことでも、この地方創生という名のもとにいろいろな協議をしていただければ、私はこれからは非常にそういうことができるようになると思っておりますので、今までなかなか難しかったことなども、積極的に国や県に出向いたりしてそういうものができるように努力をしていただくのも、今回私は地方創生の始まりの一步じゃないかと思っておりますので、そういうことについても積極的に協議をしていただきたいと思っております。

次に、今議会でも説明がありましたが、健康増進施策の一つでもあるがん検診もなかなか数字が伸びてこないということでございました。私は、今文科省が推進している健康ポイント制度というものに興味を持っております。この制度は、例えばスポーツ施設に行くと500ポイン

ト、健康診断を受けると1,000ポイントというように、対象とされた健康関連施設に通うとポイントがもらえるものです。ポイントがたまると商品券や温泉券などに引きかえることができるようなこともあるようですが、私はこれにウォーキングで歩いた距離をポイントに上乗せして、データをとって医療費や介護費の削減との関係を明確にして健康増進に結びつけてはどうかと考えております。健康増進のために頑張るには、何かご褒美みたいなものがあるのは、競争意識であったりそういうものの観点からも、これからは私は必要になってくるんだと思います。IT技術が進んでいまして、今やスマートアプリや万歩計のような活動量計というものを使えばいろんなことができますし、実データを利用しての取り組みを行えば、私はこの近辺にないような安来独特のそういう政策になるんじゃないかなと考えております。

そこで、質問をしたいと思います。

健康ポイント制度を利用してスマホアプリなども活用した持続的に続けてもらう健康増進施策を考えてはと思いますが、いかがお考えでしょうか。お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 岩見健康福祉部次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ 失礼いたします。

スマホアプリなどを活用した、続けてもらえる健康増進施策を考えてはどうかのご質問にお答えいたします。

現在健康やすぎ21第2次計画に基づいて、24地区の健康推進会議で生涯を通じた運動の推進と地域での運動の習慣化を目指しておりますが、地域の活動には青壮年世代の参加が少ない現状がございます。年代や生活スタイル、運動の好みも多様化しておりますし、健康づくりに向けたさまざまな支援策は求められていると認識しております。健康ポイント制度の導入につきましては、現段階では考えておりませんが、一人でも運動を継続していける方法として、スマホアプリを利用するなどのITを使った支援策は今後検討すべき課題であると考えます。平成27年度に予定しております健康やすぎ21第3次計画策定に向け、先進事例に学びながら、また関係部署とも連携し研究していきたいと思っております。

以上です。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今第3次の健康やすぎ21に向けて検討したいということでありましたが、第2次でも年度ごとに見直しは当然しておられますので、仮にこういう政策も総合戦略の中に考えられるのであれば、第3次というようなことを待たずに積極的に2次計画等も変更されて進めていただきたいと思います。とにかく今回の地方創生、この総合戦略は時間がありませんし、新しいもの、独自のものを出すということが非常に大事になってきますので、そういう進め方をご検討いただきたいと思います。

実は、これと似たような施策を私は2年前に市の協力をいただきながら総務省にお願いしたことがあります。ちょうど2年前ぐらいになります。そのときは、もう受け付けぎりぎりの日に、本当にぎりぎりセーフだったという感じを出して、なかなか中身の精査ができなかったわけですが、そのときこの仕組みを見積もりをとって、そのとき活動量計を市内に200個とデー

タを活用するシステム一式で約300万円ほどでできるという見積もりをとった経験があります。ですから、なかなか全市内でということは難しいと思いますが、健康推進会議も各地区にありますので、どこの地区かをモデル地区などにさせていただいて進められれば十分できると思います。これからはシックケア（疾病管理）からヘルスケア（健康管理）、予防ということが特に重要になってくると思います。そういう観点からも、こういう施策にちょっと耳をかしていただければ私はありがたいと思っております。また、今それぞれの課で答弁をいただきましたが、それぞれの課ではいろいろなお考えがあって答弁をいただいたわけですが、安来市の人口対策で最近木村部長がよく言われるのは、横串を差すという言葉が市内の懇談会とかでもよく使っておられます。こういう今の私が言ったような政策も、政策上は各課がまたがって横串を差しながらやっていくという政策です。先ほども申し上げたとおり、これからはとにかくできない理由よりもできる方法を職員の皆さんが共有していただいて、積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

それでは3番目、「将来に向けたICT利活用の政策について」質問をいたします。

市長は、自分の実績で一番記憶に残っているのがブロードバンドインフラの整備だったと先般の代表質問の折、答えておられました。安来市もおかげさまで近年情報通信技術、いわゆるICTの環境整備が整いました。しかしながら、活用となるとまだまだですし、全然できてないものもあると思います。これは非常にもったいない話だと思います。

そこで、質問をしたいと思っております。

まず最初は、昨年9月に光ファイバー焼失の火事が伯太町地内で起こり、大変な混乱となりました。その後の対応、対策というのをまだ我々は聞いてなかったと思います。どのようにされたのか、ご報告をお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ お答えをさせていただきます。

昨年9月に伯太町東母里地内で発生をいたしました火災によりまして、光ケーブルが焼失をいたしました。事故後直ちに焼失箇所のケーブルの再接続作業を行いまして、通常どおり利用いただける状態に復旧をいたしております。

いろんな対策が考えられるところですが、ケーブルということになりますと、防止する方法といたしましてはケーブルの地下埋設なども考えられますが、まず費用が高い、また何らかの事情で断線した場合、電柱にかける方法に比べますと異常箇所の特定ですとか復旧作業に時間がかかったり。今後も特段の事情がない限り、光ケーブルにつきましては電柱に張る方法で敷設をしまいたいと思っております。

昨年の火災につきましては、行政告知放送あるいはケーブルテレビ放送などのほか、ほかの民間の通信線を用いた放送通信サービスも複数できなくなりまして、市民の皆様への情報伝達が困難な状況となりました。今後このような状態となった際の情報伝達手段を確保するために、当面広報車による広報体制を強化することとし、スピーカーを搭載した広報用車両を安



来、広瀬、伯太の3庁舎全てに配備をいたしました。このほか、災害時における迅速な対応を図るため、改めて災害対応マニュアルをもとに、職員対応につきまして関係部署で再確認をいたしました。

また、引き続き安来市内の情報ネットワーク網の保守管理を委託しております山陰ケーブルビジョン株式会社との連絡体制を強化してきたところでございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 光ケーブルが切れてしまってループの外側の大事なところが切れると大混乱になるという教訓も得たわけですから、今後こういうことがないようにしっかり管理をしていただきたいと思います。

それでは次に、このたび70カ所に設置されたW i - F i スポットについて質問をいたしたいと思えます。

私は、この設置については非常に高い評価をしたいと思えます。最近いろいろな市町村とかに視察に行っても、安来はすごいですね、70カ所もW i - F i あるんですかということで皆さん驚かれるというのが私の実感でございます。これも今後どういうふうを活用していくかというのが大きなポイントになると思えますが、今後はどのように活用していくお考えなのかお答えをお願いします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ ご評価をいただきましてありがとうございます。

この事業のご説明をさせていただきますと、このたびの事業ですが、国の防災情報ステーション等整備事業を活用いたしまして、本市の第三セクターとなりました山陰ケーブルビジョンが事業主体として行ったものでございます。既に市内の指定避難所など70カ所にアクセスポイントという半径100メートルぐらいで通信が可能になるということなんですが、アクセスポイントの設置が完了しておりまして、今月中旬には運用を開始する予定となっております。運用につきましてでございますが、● ●災害時を想定して整備をしたものでございますが、平時につきましても有効に活用していきたいというふうを考えております。当面、主に観光客への情報提供など観光振興に役立てていくこととしております。現在スマートフォンによりますW i - F i 無料公衆型無線LANでございますが、この利用についての講習会の開催などを検討しておりまして、より一層の利活用を進めてまいりたいと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 当面は防災と観光ということですが、観光ということになりますと、先ほどの岩田議員の質問でもありましたが、スマホのソフト、やすぎ街歩き観光「どげなび」というものの運用も始まりました。私もダウンロードして使っておりますが、なかなか使い勝手がいいような悪いような感じで、運用当初はそういうものなのかなと思っておりますが、利用状況と評判のほうはいかがででしょうか。今は月山富田城周辺のみとなっておりますが、今後これをどのように広げていかれる予定なのか、それもあわせてご答弁をお願いします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 横田産業振興部次長。

▼○産業振興部次長（横田一道君）▽ 観光ナビゲーション「どげなび」でございますけども、私もダウンロードしておりまして、なかなか使い勝手が悪いなというふうに分自身思っておるんですけども、ダウンロード数と利用状況につきましては、全国の一律のシステムを利用しているため確認することができておりません。運用以降、観光協会内で「どげなび」を紹介しているホームページには250件を超えるアクセスがあつてございます。

それから、評判につきましては、イエローバスを利用して月山を訪れる観光客に対して、広瀬バスターミナルなどの停留所からの誘導方法として役立っていると観光協会のほうに声が伝わっておりましてございます。また、現在は広瀬、月山富田城の周辺及びさぎの湯地区について案内をしておりますが、今後は順次エリアを拡大していき、利用者にとって使いやすいものになるようにしていきたいというふうを考えてます。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 使いやすいものに徐々によくしていったらいいと思います。

次に、昨年3月、緊急情報通信システムの導入に合わせてフェイスブックも運用されておりますが、見ますとほとんど活用がなされていないというのが実態でございます。活用するためには体制の確立が一番だと思いますが、今後どのようにしていかれるのか、お答えをお願いします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ SNS——ソーシャル・ネットワーキング・サービスの中で、特に主といたしましてフェイスブックの活用につきましては、当初防災情報のみに限定する形で昨年3月に開設をいたしました。その後、一般行政情報についても掲載することにしたんですが、議員ご指摘のとおり現状では十分に活用し切れていないことは認識をいたしております。本市の情報を効果的に発信する上で有効な手段でございますので、改めてそういう利用体制について市内で整備しているところでございます。今後活用してまいりたいと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ これは全国の今市町村、結構一生懸命やっております。今の状態ですと、もうやらなかったほうがいいかなと思うぐらいな状況です。これは早急に対処していただきたいと思います。

次に、きのうも質問がありましたが、最近安来のイチゴがマスコミに大きく取り上げられて大変うれしく思いますが、供給の面とかいろいろな問題はあります。軌道に乗れば今後どうやって販売していくかということも大きな課題だと思っております。私は改めて安来市で特産品などの通販サイトをつくることも検討していただかないといけないのかなと思っておりますが、この件についていかがお考えでしょうか。お答えをお願いします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 横田産業振興部次長。

▼○産業振興部次長（横田一道君）▽ まず、作野議員からイチゴの取り組みについてお褒めの言葉をいただきました。大変ありがとうございます。

通販サイトの件でございますけれども、現在産業サポートネットやすぎにおきまして、市内のブランド品、特産品、工芸品等を紹介した商品カルテ事業を行っております。今後35社、162アイテムを産業サポートネットのホームページに掲載するほか、各社2アイテムまで紹介した小冊子を作成する予定でございます。これらは市にバイヤー向けの商品を紹介するツールとして活用するものと位置づけをしております、通信販売を目的とするものではございません。通信販売サイトの立ち上げにつきましては、実施主体でありますとか商品選択、決済システム等今後の課題であると認識しております。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今自治体の中で、全国まだ22自治体ぐらいなんです、佐賀県の武雄市も市長さんが先頭に立って、いろいろ問題も出たり紆余曲折もあったようですが、「自治体特選ストア」というのが大手通販サイトのヤフーさんと連携して、今運用をしております。このサイトなんかは、出展者にお金がかからない、それからまたシステムがわかりやすく手軽だということもありますので、そういうものなんかも検討の対象にさせていただいて、ふるさと納税もそうなんです、そういう面からもこういうことは必要じゃないかと思っておりますので、ご検討をお願いします。

次に、社会保障と税の共通番号制度 マイナンバー制度について質問いたします。

代表質問で嶋田議員のほうからも質問がありましたので、このマイナンバー制度ができると市民の方にどういうメリットがあるのかということをご説明をいただければと思います。お願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ お答えをさせていただきます。

国民の皆様は一人ずつ固有の12桁の番号を● ●でございますが、マイナンバー制度の利用が早速来年の1月から開始されることになっております。来年4月以降、国の行政機関ですとか地方公共団体におきまして、マイナンバーは社会保障、税、災害対策の分野で当面利用されることになってまいります。このため、国民の皆様には年金、雇用保険、医療保険の手続、生活保護、児童手当、その他福祉の給付、確定申告などの税の手続などで申請書などにマイナンバーの記載を求められていくことになってまいります。個人番号カードの交付を希望される場合は、ことし10月に配布をいたします通知カードに同封された申請書により申請をしていただくこととなります。通知カードと引きかえに個人番号カードが来年以降交付されることになってまいります。個人番号カードは顔写真つきのICカードになっておりまして、本人確認のための身分証明書として当面使用ができるほか、国税の電子申告、あるいは電子申請に利用ができることとなります。

また、少し先でございますが、ことしは平成27年でございますが、再来年、平成29年1月か

らはマイナンバーを使って自分の個人情報がどのようにやりとりをされているか、ご自身で記録の確認ができる情報提供等を記録開示システムが稼働する予定でございます。再来年の4月以降に地方公共団体間の情報連携が始まりますので、それ以降のところでいろいろなご活用をいただけるのではないかなと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは最後に、「新教育委員会制度と安来市の教育について」質問いたします。

将来の安来にとって教育も大きな柱でございます。地方版総合戦略と総合計画、新教育委員会制度がほぼ同じ時期に動き出すことは、安来にとって大きな意味を持つと思います。人口対策にとっても重要な施策だと思っております。

そこで、質問をしたいと思っております。

4月から新教育委員会制度が始まり、安来市も移行されます。その中で、市長が招集する総合教育会議が設置されることになっておりますが、いつごろから開催を予定しておられますでしょうか、お答えをお願いします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 4月1日からこういう新しい制度に移行します。ぜひともできるだけ早く開きたいと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ この中でまた大綱を策定することになっておりますが、なかなかこの方向性という、先ほどの原田議員のときにもありましたが、市長さんのお考えがわかりましたので最後の質問に移りたいと思っております。

昨年の代表質問の中で、校務管理システムの導入ということについてお尋ねいたしました。検討はどれぐらい進んでいるのかお答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ 校務管理システムについてのご質問でございます。

現在さまざまな情報を収集し、調査研究を重ねておるところでございます。予算面で導入価格やランニングコストなどの課題はある、さらに各学校におけるサーバーなどメンテナンス作業、あるいはハード面、ソフト面でクリアすべき問題がございます。今後も精力的に調査研究を重ねてまいりたいと考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員、時間が参りましたのでまとめてください。

▼○4番（作野幸憲君）▽ いろいろとお聞きしましたが、今回の地方創生というのは安来市の将来を決める大事なものだと思っております。特にこの新年度の上半期が勝負だと思っておりますので、とにかくできない理由よりできる方法を積極的に考えていただきたいと思っております。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

▼○議長（金山満輝君）▽ 以上で4番作野幸憲議員の質問を終わります。